

## 防災意識に関するアンケート結果

県では、県民の皆さまの防災に対する意識や行動について把握し、今後の防災対策の充実に役立てることを目的として、「防災意識に関するアンケート調査」を実施しました。

★調査時期:令和7年9月

★対象者:県政モニター300人

★回答数:246人(回答率82.0%)

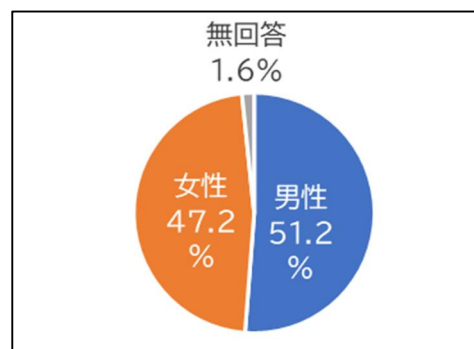
★担当課:知事公室 防災危機管理局

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

### 【属性】

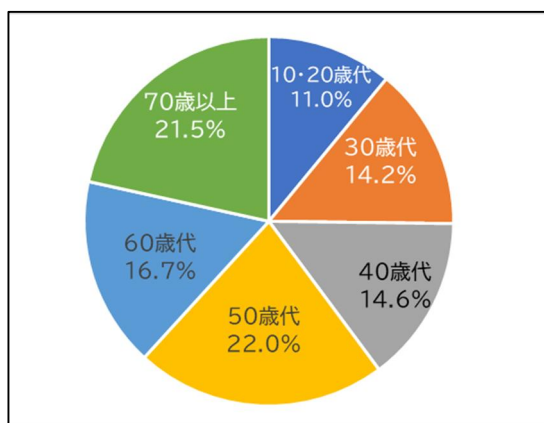
#### ●性別(n=246)

項目	人数(人)	割合
男性	126	51.2%
女性	116	47.2%
無回答	4	1.6%
合計	246	100.0%



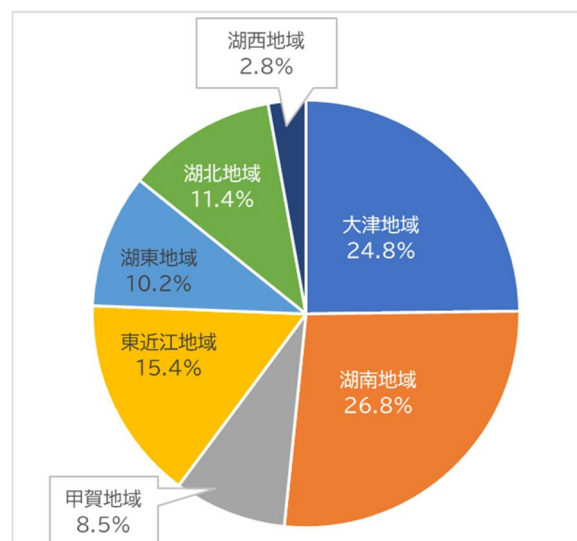
#### ●年代(n=246)

項目	人数(人)	割合
10・20歳代	27	11.0%
30歳代	35	14.2%
40歳代	36	14.6%
50歳代	54	22.0%
60歳代	41	16.7%
70歳以上	53	21.5%
合計	246	100.0%



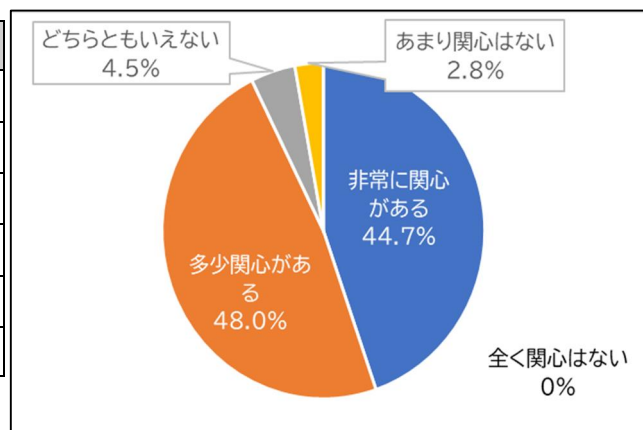
●地域(n=246)

項目	人数(人)	割合
大津地域	61	24.8%
湖南地域	66	26.8%
甲賀地域	21	8.5%
東近江地域	38	15.4%
湖東地域	25	10.2%
湖北地域	28	11.4%
湖西地域	7	2.8%
合計	246	100.0%



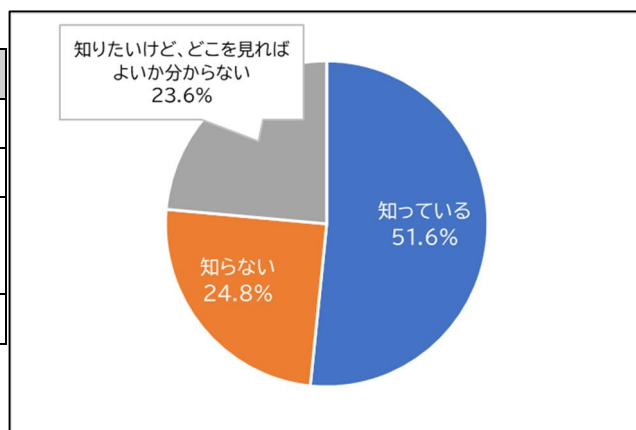
問1 あなたは現在、大地震にどの程度の関心を持っていますか。(n=246)

項目	人数(人)	割合
非常に関心がある	110	44.7%
多少関心がある	118	48.0%
どちらともいえない	11	4.5%
あまり関心はない	7	2.8%
全く関心はない	0	0.0%
合計	246	100.0%



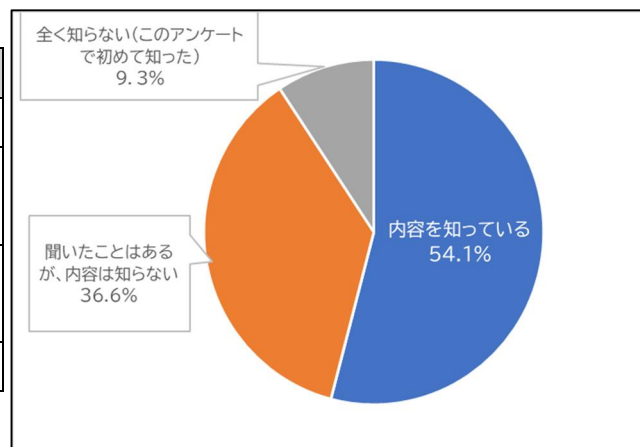
問2 お住まいの地域の地震リスク(液状化リスク含む。)を知っていますか。(n=246)

項目	人数(人)	割合
知っている	127	51.6%
知らない	61	24.8%
知りたいけど、どこを見ればよいか分からない	58	23.6%
合計	246	100.0%



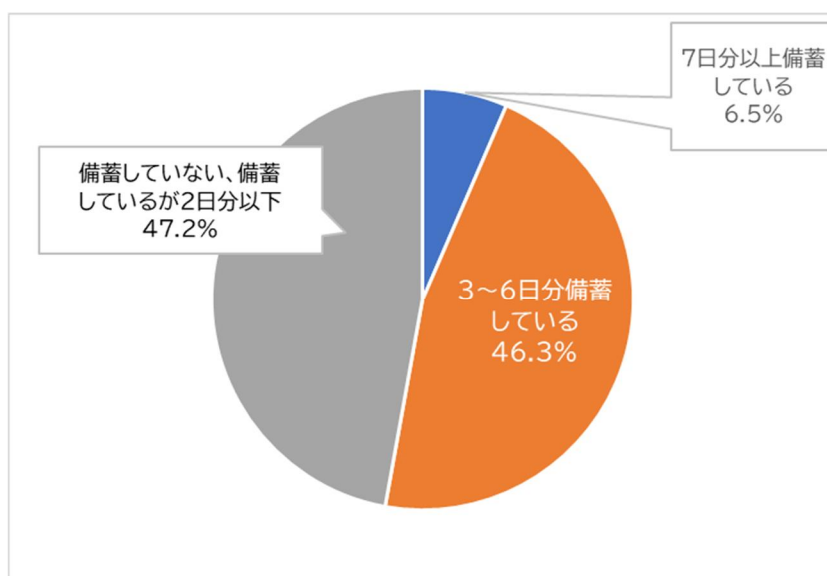
問3 南海トラフ地震臨時情報の内容は知っていますか。(n=246)

項目	人数(人)	割合
内容を知っている	133	54.1%
聞いたことはあるが、内容は知らない	90	36.6%
全く知らない(このアンケートで初めて知った)	23	9.3%
合計	246	100.0%



問4 災害時、避難所に自治体等からの支援が届くまでは3日程度かかることが想定されます。  
普段から食料や水などを備蓄していますか。(n=246)

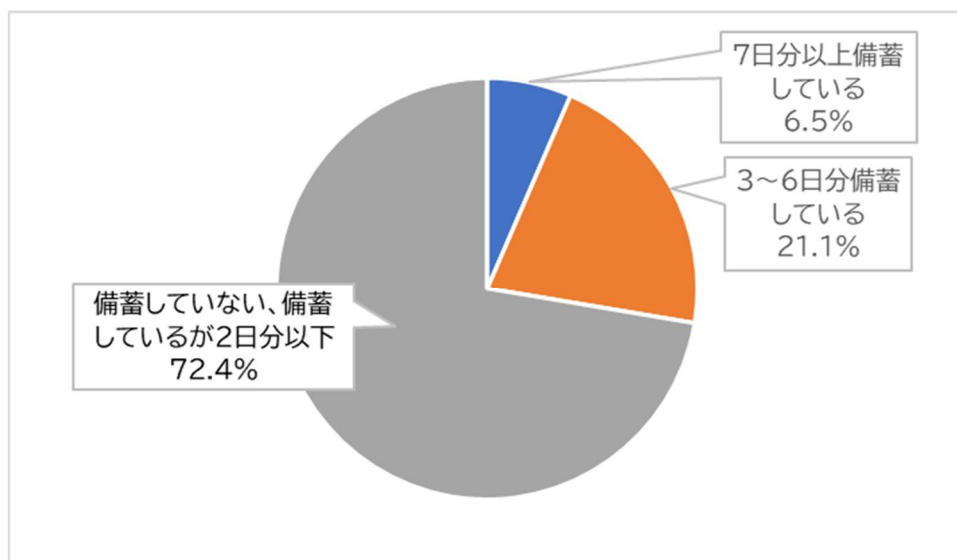
項目	人数(人)	割合
7日分以上備蓄している	16	6.5%
3日～6日分備蓄している	114	46.3%
備蓄していない、備蓄しているが2日分以下	116	47.2%
合計	246	100.0%



問5 一般的に、人間は一日に5回排泄されています。

普段から災害や断水に備えて携帯トイレを備蓄していますか。(n=246)

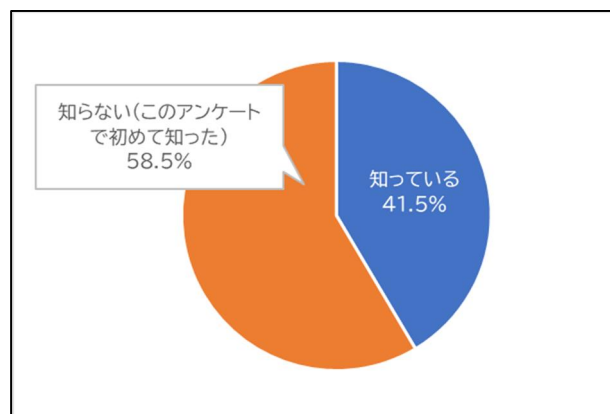
項目	人数(人)	割合
7日以上備蓄している	16	6.5%
3日～6日分備蓄している	52	21.1%
備蓄していない、備蓄しているが2日分以下	178	72.4%
合計	246	100.0%



問6-1 地震が起きたあと、漏電による火災が発生することがあります。このような火災を防止する器具を感震ブレーカーといいます。

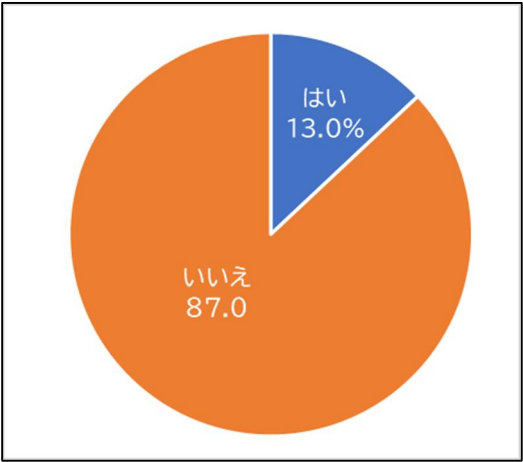
感震ブレーカーを知っていますか。(n=246)

項目	人数(人)	割合
知っている	102	41.5%
知らない(このアンケートで初めて知った)	144	58.5%
合計	246	100.0%



問6-2 感震ブレーカーを自宅に設置していますか。(n=246)

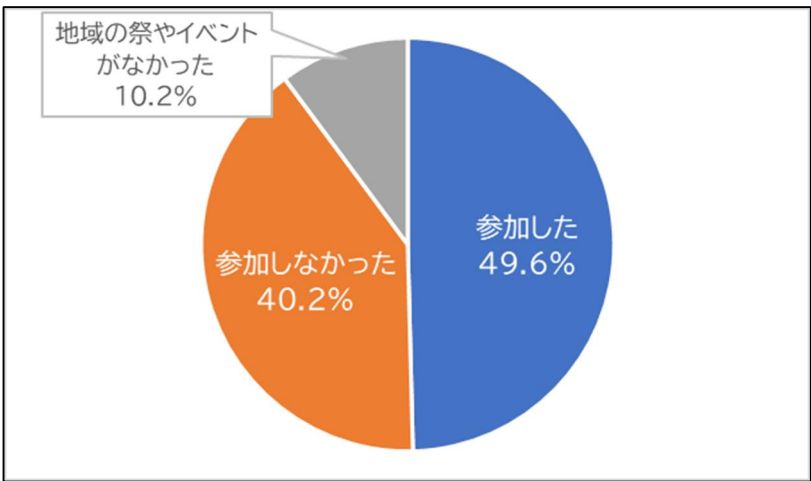
項目	人数(人)	割合
はい	32	13.0%
いいえ	214	87.0%
合計	246	100.0%



問7 防災訓練以外にも、地域の祭りやイベントに参加することにより、近所の方と顔なじみになれたり、ご自身や周りの人たちの得意なこと、できることを知ることができ、いざというときに助け合うことができます。

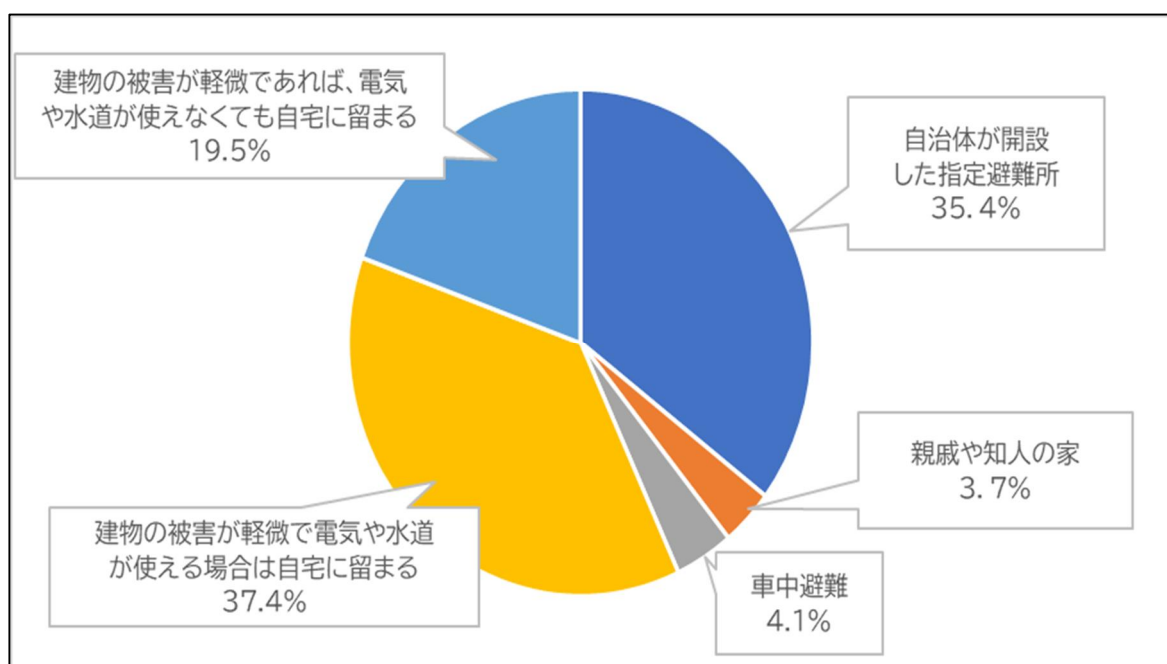
1年以内に地域の祭りやイベントに参加しましたか。(n=246)

項目	人数(人)	割合
参加した	122	49.6%
参加しなかった	99	40.2%
地域の祭りやイベントが無かった	25	10.2%
合計	246	100.0%



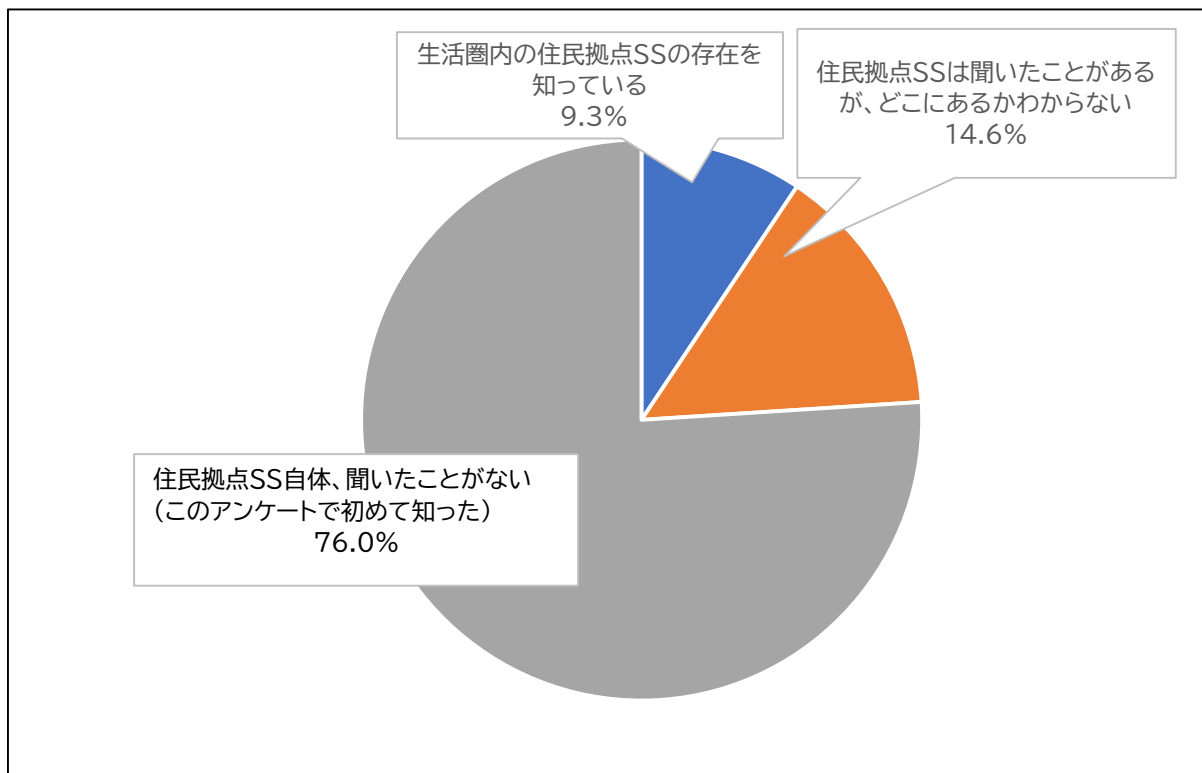
問8 自宅にいる時に、大規模地震が発生した場合、どこに避難しますか。一番近いものを1つ選択してください。(n=246)

項目	人数(人)	割合
自治体が開設した指定避難所	87	35.4%
親戚や知人の家	9	3.7%
車中避難	10	4.1%
建物の被害が軽微で電気や水道が使える場合は自宅に留まる	92	37.4%
建物の被害が軽微であれば、電気や水道が使えなくても自宅に留まる	48	19.5%
合計	246	100.0%



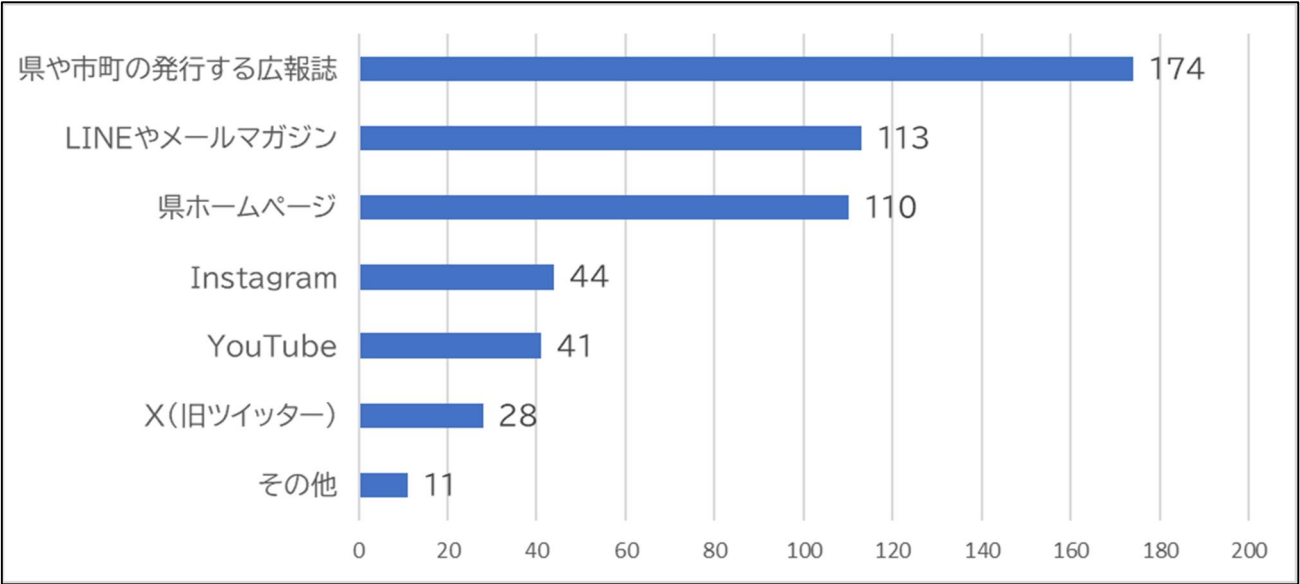
問9 災害発生時は緊急車両などしか給油できないガソリンスタンドがあります。  
 一方、住民拠点 SS は、住民向けに燃料を供給できるガソリンスタンドです。  
 住宅拠点 SS を知っていますか。(n=246)

項目	人数(人)	割合
生活圏内の住民拠点 SS の存在を知っている	23	9.3%
住民拠点 SS は聞いたことがあるが、どこにあるか知らない	36	14.6%
住民拠点 SS 自体、聞いたことがない (このアンケートで初めて知った)	187	76.0%
合計	246	100.0%



問10 平時の備えに関する情報をどんな媒体で入手したいですか。(回答チェックはいくつでも n=246)

項目	人数(人)	割合
県や市町の発行する広報誌	174	70.7%
LINE やメールマガジン	113	45.9%
県ホームページ	110	44.7%
Instagram	44	17.9%
YouTube	41	16.7%
X(旧ツイッター)	28	11.4%
その他	11	4.5%



(その他の内容)

- ・テレビ
- ・ラジオ
- ・チラシやポスター
- ・市町や国のホームページ



問11 県の防災対策に関するご意見がございましたら記入ください。(任意、抜粋)

- ・滋賀県は比較的災害の少ない県と感じていて、防災を自分事として考えていないところがあります。考えたくはないですが、考えておかななくてはいけない、起こりうる最悪のシナリオを知っておきたいと思います。意識が変わると思います。
- ・県・地域の防災について、もっと多様な場所、媒体を通じて発信してほしいと思います。備えについても具体的に、また最近の新しい対策グッズなど紹介いただけると助かります。
- ・防災意識を高めるために、気軽に参加できるイベントをやしてほしいです。意外と子どもと一緒にというイベントが多くて、私達の世代だけでは参加しにくいです。また、避難場所になる公園をもっと整備してほしいと思います。近くにある公園では避難しても座る所やトイレもないです。避難時には釜になるベンチなどもチラチラ見るようになってきたものの、まだまだ数は少ないと思います。南海トラフもありますので、滋賀県として防災意識をもっと高めていけたらいいな、と思います。
- ・マンション住まいなので、なかなか地域住民と接する機会もなく、昨今の個人情報保護の観点からご近所の顔と名前がマッチしていない。同じような環境の県民も多くいると思われるので今後は行政の対策が大変重要であると思われる。
- ・いつ起こるか分からないのが災害だが、何も備えはしていない。避難場所も知らないし、住んでいる地域の危険度も全く知らない。災害は他府県であるもので自分のこととして考えられていない。県民にはそのあたりの注意喚起も必要だろう。
- ・防災訓練や防災情報収集に携帯を使う事が多くなるとは思いますが、速報性のある情報を集めて判断する事が難しく思います。行動を起こす準備や備え、家族との連携と約束ごとに加えて、動揺して判断する事が難しさを高めるとは思います。防災訓練の基本的な初動対応を確認出来るリーフレットが要ると思います。災害の程度やタイミングにより、その時に行動を起こして最善と考える、逃げる避ける待つなどの判断をする事が大切と考えます。
- ・大地震時の、電気・水道・ガス・下水のそれぞれの使用できないリスク、回復までの期間等の想定を詳しく教えて欲しい。家族に高齢者・障害者がいるため、一時的避難は別として、避難所での避難生活は不可能との前提で備えざるを得ないので。
- ・県の災害対策と市町の災害対策の分担・連携を広く知らせてほしい。これからは、防災の中でも、いつ来るかわからない大地震(南海トラフ)対策を広く周知することと行動につながるような施策を希望する。
- ・10年ほど前、役員をしていましたので、自治会で自主防災会を立ち上げました。当時、他の自治会で先に立ち上げた所があり、役員揃って学習に行き、防災倉庫を設置、発電機など購入、自主防災員募集で若い人が10名ほど加わり、消防署から消火設備指導や心臓マッサージ実習など、先輩自主防災会に並べと頑張りました。役員は毎年交代で、次の役員に引き継ぎました。3年ほど続けました。その後、何となく活動が弱くなって、この3年ほど活動がない。昼の地域は高齢者がほとんどになり、高齢化住宅地ほど自主防災会が重要です。自治会の会長

任せでなく、県などから自治会長の研修や指導や管理が必要と考えます。

- ・「災害は忘れたころにやってくる」ものだとしても、県からの情報提供として、TV(滋賀県版 NHK など)をもっと活用して、特別に災害に対して注目度の高い家庭以外にも、定期的に自然な形で防災情報が提供されるようにするのがよいのではと思う。(広報誌の重要性は認めるが、防災意識の低い家庭向けには TV 情報が有効。)
- ・地震で福井の原発に不具合が発生した場合の対策が分からない。
- ・この先起こるであろう災害に対しての準備が出来てないことに若干の焦りを感じた。これを機に、水2L×6 と簡易トイレ、ポータブル電源は最低限置いておこうと思う。出来るだけ早く購入したいと思う。さらに、外出先での被災に備えて、マイカーにも防災用品や水 500ml×3、エアマット等は最低限として備えておこうと思う。
- ・住民拠点 SS について、スタンド名のみならず、地図形式で情報を配布してほしい。
- ・避難所では避難する場がない状態になると思われます。仕方なく、破損した自宅に留まったり、野宿をしたりする方々がたくさんいらっしゃると思います。そうした方々への給水所の場所・日時や医療を受けられる場所・日時、その他の生活用品や食料の配布などに関する情報の提供先をあらかじめ災害前に数力所決めて頂けると安心です。マンション暮らしですが、年齢や病気・身体の不自由さが違い、助け合いたいと思いますが、情報が入らないと動けず、ただ困ってしまうだけです。情報の公平性を求めます。
- ・災害の種類、規模によって対策が異なると思うが、県の防災対策についてはよく分からないのでどんな災害を想定しているのか、またその対策概要について周知して欲しい
- ・災害時に誰でも利用できる避難所情報やハザードマップを、スマホなどで簡単に確認できる仕組みをさらに充実させてほしいです。また、高齢者や子ども連れ、ペットも安心して避難できる環境整備をお願いします。
- ・関心はあるのにお金がなく備えることがほとんどできていません。子どもが障害児なのでもし災害で親が死にひとりになったらと思うとぞっとします。家族で生き残れてもその後の復興が個人でできないと思います。阪神淡路大震災から最近の九州や静岡の豪雨被害を見ても政府機関の対応が遅いし、私のような家計に余裕がない人たちは、自分たちでできる範囲が少なすぎて何十年たっても完全復興してませんよね。『滋賀県民は滋賀県が守ります』と言えるぐらい予算をまわして備えていていただきたいです。
- ・我が家から避難所まで行けるかどうか？と思うと何かあっても家に留まると思います。防災対策は地震等の何かあった時、復旧するまで安全と安心を確保できるようにお願いしたいです。
- ・地震に限らず大雪や大雨も災害だと思うが、特に大雪の時に、高速道路や国道がすぐ止まるので、迂回路の案内や隣県に繋がる道の広報が欲しい。ラジオでやっているのかもしれないが、聞き逃すとわからない。そのために SNS 活用を頑張してほしいと思う。